

日本語であそぼう ふなばし 2006

報告書

「日本語であそぼうふなばし2006」 企画	……P. 2
実践報告 1. 統計	……P. 3
実践報告 2. 授業報告	……P. 4
総括	……P. 7

作成：地球っ子プロジェクト
2006 年 8 月 31 日

1. 主催、後援等

(1) 主催：任意ボランティア団体「地球っ子プロジェクト」

(2) 後援：船橋市教育委員会
：船橋市国際交流協会

2. 趣旨

外国人児童生徒（日本語を母語としない児童生徒）が、よりはやく日本の生活に慣れ、学校での学習活動や地域の行事に参加できるよう支援を行う。併せて、日本人児童生徒の参加による国際理解教育も行う。

3. 参加者の募集

支援ボランティア：地球っ子プロジェクトのボランティアが当たるが、若干名大人の日本語教室ボランティアから募集

外国人児童生徒：日本語を母語としない船橋市内小中学生を対象に、教育委員会・各校経由募集。地球っ子プロジェクトの児童生徒も参加。

日本人児童生徒：外国人児童生徒の募集に合わせて募集。

4. 場所および日程

月 日	時 間	場 所	カリキュラム
7月22日（土）	09:00～12:00	宮本公民館 実習室	自己紹介：名札作りなど レベル別に手遊び、読み聞かせなど
23日（日）	09:00～13:00	宮本公民館 実習室集合 みこし参加 市内解散	宮本公民館実習室集合 待ち時間でネイチャーゲーム 宮本こどもみこしパレードに参加 スクランブル交差点の先で解散
24日（月）	09:00～12:00	宮本公民館 第1，2集会室	みこし参加のまとめ：写真日記など お楽しみ会：粘土細工

5. 参加費および資金

参加費は無料とし、必要な費用は、地球っ子プロジェクトの「子ども日本語教室」の資金を充当する。 想定3～4万円。

6. その他

- ・保険：参加者全員に障害・賠償保険付保
- ・参加人数想定 児童生徒：20～25名、ボランティア：10～15名

以上

実践報告 1. 統計

1.参加者の人数

申し込み人数（29名） キャンセル3名（保護者の都合、本人の学校行事など）
内、土曜日の「子ども日本語教室」のメンバー18名

2006年7月	22（土）	23（日）	24（月）
児童生徒	20	13	18
指導ボランティア	10	12	13
事務ボランティア	2	2	2
学校、教委関係者	4	3	2
外部応援*	3	1	0

*他の地域のボランティア、学生、外国人（タイ語）

2.児童生徒内訳

1日でも参加した児童生徒の人数（26名）

学年別

未就学	2
小1～2年	4
小4～6年	8
中1	2
中2	4
中3	4
夜間中1	1
高校1	1

国籍別

フィリピン	8
中国	5
タイ	3
ブラジル	3
ニュージーランド	3
ペルー	1
韓国	1
ウクライナ	1
アメリカ	1

3. 参加者の地域の傾向

東部公民館の子ども日本語教室のメンバーが多いことから、新京成線沿いが最も多かった。続いて京成線（行田、市川方面）、JR（船橋駅周辺 市場、夏見など）

4.経費 約 30,000 円

子ども教室以外からの参加者の保険料

教材（コピー、文房具、写真、粘土など）

飲み物、おやつ

実践報告 2. 授業内容

(1) グループ編成

今回は、レベルではなく学年で分けることによって、共通のテーマに同年齢の仲間と各自の日本語レベルで参加する方法をとった。これにより、レベルを越えた助け合い、思いやり、個性の発揮をねらった。

グループ 1. 未就学、小学校低学年

グループ 2. 小学校高学年

グループ 3. 中学校、高校

(2) 全体のテーマ

1. 声を出そう

2. 市民祭りに参加するという共通の体験を通して、友達作りをし、それぞれの日本語のレベルで自己表現をする。

(3) プログラム

1 日目

自己紹介 「船橋の大地図に名前のシールを貼って、ともだちマップを作る」

グループ 1. 予め子どもたちの学校、住所をマークした市内地図を用意して各人確認した。

シールに名前を書いて大きい子のグループが終わってから貼る。

全体を見て自分の家を確認。

グループ 2. 名前、学年、学校、国名を言わせたあと質問させた。

何が好き？ 彼女、彼いる？ 食べ物、スポーツ等、盛り上がった。

在日期間の長い子でも地図の上で自分の家を探すのは簡単ではなかった。

グループ 3. 中学生でも正確に住所を記憶していない子がいた。

9 月になったら自宅住所と最寄り駅からの地図を書かせてみたいと思う。

手遊び歌 全員で、身体を使いながら歌い、リズムよく声を出すウォーミングアップ

語彙を知らない子ども用に絵カードを用意した。小さい子は、恥ずかしがらずによく動いていたが、大きくなるに従って、恥ずかしそうだった。

声を出そう グループ別にそれぞれのテーマで声を出す練習

グループ 1.

導入 手遊びうた 「キャベツの中からあおむしが出た」

読み聞かせ 『はらぺこあおむし』

展開

・「なぜ蝶は花に留まる？」を考える。手作りの蝶を 2 匹用意。子どもたちにチューリップの花を折り紙で折らせ、それに蝶を止まらせ質問。「蜜を吸いにくる」と答える子もいた。そこで蝶につけておいたチューブを各自の花にとまらせてチューブを伸ばさせた。続く質問「なぜ青虫はキャ

ベツにいる？」には「葉を食べて大きくなる」の答えがあった。

- ・昆虫図鑑を見ながら卵～幼虫～さなぎ～蝶になるを確認。蛾と蝶の違いも図鑑を見ながら確認。
- ・「匹」の使い方を練習。毛虫を1匹描いて2匹描いてと絵を使った。

すでにこの絵本を読んで知っている子に、先々に説明されて、読み手がとまどった割に、子どもの発話を促したこと、他の子どもの邪魔にならずいっしょに活動でき、問題ではなかった。

グループ2.

導入 『早口ことばのうた』 藤田圭雄

全員でテンポをあわせて読む。段々速くして、できなかつたら座るゲーム形式で。

群読 各自好きな詩を選んでグループを作り、グループ毎にパートを決めて練習、発表。

- 1 『かんがえごと（こねずみしゅん）』 工藤直子（3名）
- 2 『はやく』 藤富保男（3名）
- 3 『はやくちうた』 川崎洋（1名）

全体 『お経』 阪田寛夫 わかる子には意味を簡単に説明。漢字が読めない子は仮名ふり。
面白いお経に仕上がった。

日本語力に差が有るグループなので心配だったが、声を出させることを目的に進めた。心配をよそに皆盛り上がったように思う。

グループ3. 紙芝居の読み聞かせ

- 1 『にげたくれよん』（4名）
- 2 『にんじんさん、だいこんさん、ごぼうさん』（4名）

ねらい

- ・学齢が上の大きい子たちが実演することによって、小さい子どもたちがより紙芝居を身近に感じたり、興味を持ってくれること、また縦のつながりや絆を期待した。
- ・紙芝居を選ぶとき、ストーリーや言葉が分かりやすく、小学校低学年対象のもの、文化が異なってもわかるもの、に留意した。

実際

紙芝居を鑑賞するのも上演するのも初体験だと思ったが、紙芝居そのものの説明、解説の必要もあまりなく、全員何も抵抗なく取り組んだ。読み板の表記が平仮名なので中学生グループは、読みは不自由しなかった。来日時期の違いなどにより、日本語力に大きな差があり、同じ作業がはたして出来るのか危惧したが、各自のレベルに応じた作業や対応ができていた。日本語力のある子は長い文をつくり、ない子は、ボランティアの助けを借りながらそれなりの文になった。

・一人2枚を担当して、8枚を順番に読んだ。絵板の抜き取り、読みのタイミングがそれらしくなるにつれて、本人たちも紙芝居上演の面白さを感じたようだ。

- ・『にげたクレヨン』の発展として、自分の好きな色で「クレヨンの話」を絵と文で作らせた。

反省

難しい日本語独特の名前や言い回しを避けて選ぶ必要は無かったかもしれない。日本の昔話や日本文化独特のものが入っていてもよかった。また、低学年を意識しすぎた結果、内容が簡単すぎ

た傾向がある。中高学年用にひとつはもう少し難しいものでもよかった。

2日目

神輿体験 「船橋産業祭り」宮本こどもみこしに参加

ねらい

日本文化の体験、共通の体験をすることによって、次の日に同じテーマでの学習につなげることができる

実際と反省

宗教行事としてこだわる子はほとんどいなかったのもみんな楽しんでいたようだ。祝詞を受けた代表の2名も厳粛な雰囲気味わってよい経験になったようだ。今回は前日の授業で「神輿」についての学習がなかったので、意味がわからずに参加した子もいたことは、後で補うべきであった。

森の美術館

ねらい

去年の経験から、神輿の出発まで時間があつたので、その間にできる活動として大神宮でスケッチを行った。

実際

手作りの画板、フレーム、鉛筆を渡して、好きな場所や物をフレームをかざして選び、スケッチをさせた。選ぶ物に個性があり、自己表現にも役だったようだ。待ち時間対策としても有効だった。

3日目

神輿体験のまとめ（写真・絵日記）

ねらい

共通の体験を話しながら、日記に書く練習。神輿に参加しなかった子どもは、ベランダから見える風景で「森の美術館」の道具でスケッチ。または、1日目の授業の写真を使って日記作成。

実際と反省

中学生グループだけでなく全員が熱心に取り組んでいたようだ。展示して見ると、それぞれの子の個性が非常に豊かに表現されていた。文章の上手な子、絵のうまい子など子供の可能性を感じた。写真があつたので、日記が書きやすかった。絵日記では絵を考えるだけでも時間が足りなかったと思う。中学生は楽しそうにコメントを書いていた。コメントを書きながら、とても良い作文の練習になった。こういう写真を使ってコメントを書くというのは、普段の活動にも使えると思う。

成果発表 1日目の「声を出そう」の練習の発表

グループ2 群読の題材の中から「お経」を子どもたちが選んだ。1日目に参加しなかった子ども、かなをふり、練習。難しい日本語の意味や音をものともせず立派に読みこなしていた。

グループ3 紙芝居の上演 普段シャイで声が小さい子ども声を出すように努力していた。人前で発表したり、パフォーマンスする活動も大切だと思う。恥ずかしそうにはしていたが、やはり何かを表現したいという欲求があると感じた。このような”表現”は、集団で勉強するメリットを最大限利用でき、授業の手段としても有効だった。聴かせて見せる意識とタイミングも合い初めての体験にしては上出来だった。聴衆側の小学生も活発に答えたり、質問したりした。通常の教室でも、全体活動（ゲーム）の時間に紙芝居をしてもよいのではないかな。

おたのしみ会 粘土細工

ねらい

昨年のお楽しみ会のテーマの中で粘土が一番人気があったので、今回は1つに絞って量的にも時間的にも十分楽しんでもらうことにした。特に学習項目は設定せず、ボランティアは作っているものの名称、理由などよく話しかけながら作業をするよう心掛けた。

実際と反省

子どもたちは大変楽しんでいただけたようだ。写真日記やスケッチ同様、子どもたちの個性と表現の可能性の大きさが感じられた。中学生の場合は、単に粘土で何か作るというだけではなく、言葉との関連性のあるアクティビティーもあってもよかったかもしれない。たとえば抽象的な言葉を与え、それから連想する物を作らせる等。小さい子のグループでは、粘土を始めに等分に分けなかったという反省もあったが、早いもの勝ちで粘土をどんどん使う子、ゆっくり考えて使う子がいて、結果としては、最後にはそれぞれの形に仕上げていた。

総括

船橋に於ける外国人児童生徒を対象とした「夏休み子供日本語教室」の活動は、「地球っ子プロジェクト」の前身である「子供サポートグループ」により、県、市教育委員会と共に昨年、一昨年と2回実施してきた。今年4月発足した「地球っ子プロジェクト」としては、初めての活動であったが上述2回の実績の成果があって準備段階からスムーズに進めることができた。経験は貴重な財産であることを実感した。

今回の活動に際し、市教育委員会と国際交流協会の後援をいただいたこと、また宮本公民館の協力もいただいたことが、この活動の大きな支えとなった。

三日間にわたって参加した児童生徒や送迎にみえた両親の反応、参加者の中から3名9月の新学期に子ども日本語教室への申し込みがあったことから、総じて合格点の活動ができたのではないかなと思う。今後の活動のための貴重な財産をもう一つ増やすことができたと考えている。